

# 東本願寺「内事」建設映像公開

## 職人ら100年前の街並み背景に

1923（大正12）年に真宗大谷派の宗主や次期宗主の住居として、本山の東本願寺境内（京都市下京区）に建てられた「内事」の洋館の建設工事を撮影した映像がインターネット上で公開されている。映像は約3分で、100年前に撮った屋根の上での作業風景や寺周辺の街並みが映っている。



東本願寺の内事の工場の映像。奥に西本願寺とみられる建物が見える（大谷光道さん提供）

公開したのは、右京区嵯峨鳥居本北代町の本願寺。真宗大谷派の故大谷光暢元門首（法主）の四男にあたる大谷光道さん（78）が宗派を離れて設立し、法主を務めている。光道さんによると、光暢氏は映像撮影に造詣が深く、自身が撮影したものを含む多数のフィルムが残っており、その中に内事の建設工場の映像があったという。



内事の工場の映像。東本願寺境内の大師堂が見える（大谷光道さん提供）

### 大谷光道氏所蔵 重文指定が契機

内事は洋館と和風住宅の日本館、鶴の間の3棟で、二世帯住宅と執務室の機能がある。「関西建築界の父」と称される建築家武田五一が設計した。今年6月、重要文化財に指定されることが決まった。

映像は35ミリフィルムからデジタル処理をした3分12秒。冒頭に「大谷家改築工事 大正十二年一月七日正午撮影」の文字が入っている。職人が屋根の上に入り、のこぎりや金づちを手作業で使っている姿や、工事で使われたとみられるクレーンに人が乗り、手を振る様子などが映されている。作業の背景には、御影堂（大師堂）や御影堂門をはじめ、西本願寺とみられる街並みが映っている場面もある。

光道さんは「内事が重要文化財に指定されることが決まり、映像を公開することにした。この時代の映像は珍しいと思う」と話している。映像は、動画投稿サイト・YouTubeの嵯峨本願寺のチャンネルで見られる。（河北健太郎）